

MPE720 Ver.7.24 バージョンアップ情報

1. 機能追加・改善項目

1.1 Ver.7.24 バージョンアップ情報

MPE720 Ver.7.23 → Ver.7.24 の機能追加・改善項目は次の通りです。

No.	機能項目	分類
1	267IF-01 (CC-Link マスタ)モジュールを追加しました。	新規追加
2	モーションプログラムの ACCMODE 命令に、モード 4 を追加しました。	新規追加
3	217IF-01 モジュールの伝送プロトコルの設定項目に、「無手順 FD」を追加しました。	改善
4	ラダープログラムの変数登録アシスト機能をサポートしました。	改善
5	ラダーエディタの置換機能において、レジスタコメントのコピーオプション機能をサポートしました。	改善
6	プロジェクト内置換機能において、レジスタコメントの移動オプション機能をサポートしました。	改善
7	プロジェクト内置換機能において、モーションレジスタの置換機能をサポートしました。	改善
8	プロジェクト内置換機能において、Bit 型レジスタの置換機能を改善しました。	改善
9	変数、コメントのエクスポート機能の改善を実施しました。	改善
10	シンボルの変換動作を改善しました。	改善
11	環境設定画面に、プロジェクトファイルの MPE720 Ver6 との互換運用モード機能を追加しました。	改善
12	コメントリスト機能に、レジスタマップを表示する機能を追加しました。	改善
13	検索の出力ログの表示改善を実施しました。	改善
14	調整パネルのエクスポート、インポート機能の改善を実施しました。	改善
15	リアルタイムトレース機能のサンプリング周期設定の改善を実施しました。	改善
16	ラダープログラムのショートカットキーを追加しました。	改善
17	プログラム選択チェックツリーの動作改善を実施しました。	改善
18	ラダープログラムのコンパイル動作の改善を実施しました。	改善
19	プロジェクトファイルの全プログラムのコンパイル動作の改善を実施しました。	改善
20	ラダープログラムの「現在位置からの呼出し参照」動作の改善を実施しました。	改善
21	ラダープログラムの FUNC 命令の入力操作を改善しました。	改善
22	軸のセットアップウィザード機能の「軸タイプの設定」画面の動作改善を実施しました。	改善
23	ラダーエディタのパラメータ設定ダイアログの表示改善を実施しました。	改善
24	ラダーエディタの検索機能の動作改善を実施しました。	改善
25	軸運転モニタのモーションコマンドの表示改善を実施しました。	改善
26	プロジェクトファイルの保存動作の改善を実施しました。	改善
27	MPE720 Ver5 の圧縮ファイル(拡張子: MAL) から Ver6 互換プロジェクトファイル(拡張子: YMW) への変換動作の改善を実施しました。	改善
28	MC-Configurator の SVB モジュールの設定保存動作を改善しました。(PART 1)	改善
29	MC-Configurator の SVB モジュールの設定保存動作を改善しました。(PART 2)	改善
30	サーボパラメータ画面のサーボパックバージョンの表示改善を実施しました。	改善
31	通信プラットフォームの通信断線時の動作改善を実施しました。	改善

(※): Windows 7、Windows VistaのOS環境で、既にMPE720 Ver.7.11以前のMPE720 Ver.7を使用していた場合に MPE720 Ver.7.13以降で追加された軸セットアップウィザード機能へのサーボ機種(ΣV-miniシリーズ)追加などの情報(データベースに追加された最新の情報)で動作しない場合があります。
操作手順については、次頁を参照ください。

【Windows 7、Windows Vista環境での使用方法について】

Windows 7、Windows VistaのOS環境で、MPE720 Ver7を使用した場合、以下の現象が発生することがあります。

<原因>

Windows 7、Windows VistaのOS環境で、既にMPE720 Ver.7.11以前のMPE720 Ver.7を使用していた場合に、MPE720 Ver.7.13以降で追加された軸セットアップウィザード機能へのサーボ機種(Σ V-miniシリーズ)追加などの情報(データベースに追加された最新の情報)で動作しない場合があります。

<対策>

以下の手順に従い、バッチファイルを実行することで以下フォルダを削除してください。(※1)

C:\Users\ユーザー名(※2)\AppData\Local\VirtualStore\Program Files(※3)\YASKAWA\MPE720 Ver7

手順

1. MPE720 Ver.7インストーラに同梱されているバッチファイルをデスクトップにコピーします。

【ダウンロード版の場合】

MPE720Ver7_xxx(※4)\Tools\CleanUp\MPE720Ver7_x86.bat (32ビット版OS用)

MPE720Ver7_xxx(※4)\Tools\CleanUp\MPE720Ver7_x64.bat (64ビット版OS用)

【CD版の場合】

D(※5)\Tools\CleanUp\MPE720Ver7_x86.bat (32ビット版OS用)

D(※5)\Tools\CleanUp\MPE720Ver7_x64.bat (64ビット版OS用)

2. コピーしたバッチファイルを選択し、ダブルクリックで実行します。

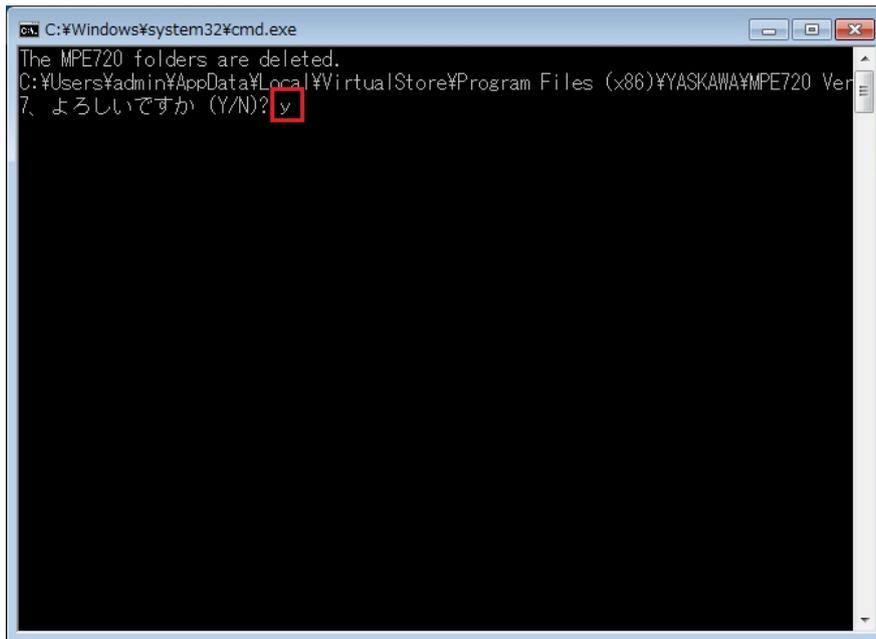
ご使用のOS環境により、実行するバッチファイルを選択してください。

MPE720Ver7_x86.bat (32ビット版OS用)

MPE720Ver7_x64.bat (64ビット版OS用)

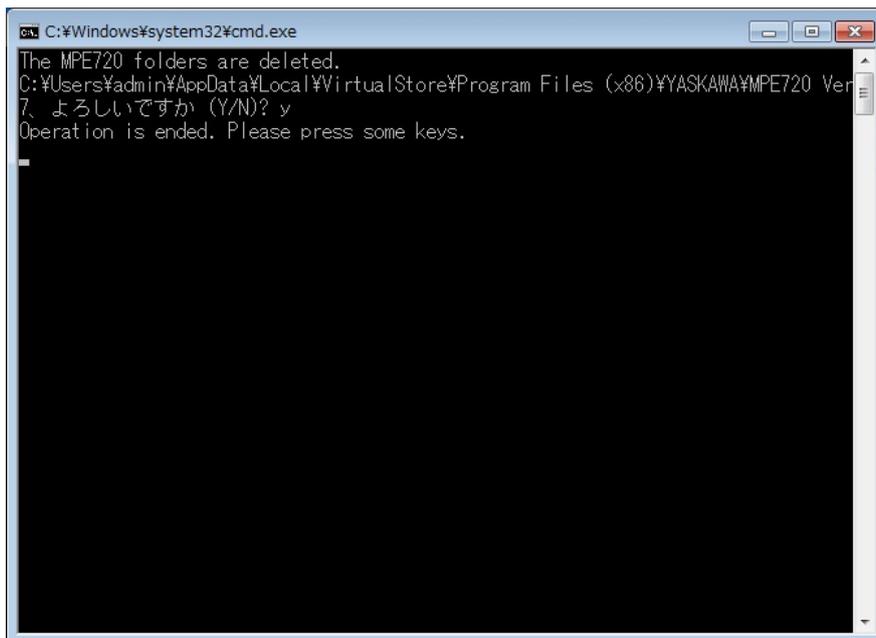


3. コマンドプロンプト上で「y」を入力し、Enterボタンを押下します。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
The MPE720 folders are deleted.
C:\Users\admin\AppData\Local\VirtualStore\Program Files (x86)\YASKAWA\MPE720 Ver
7, よろしいですか (Y/N)? y
```

4. 削除処理終了後、コマンドプロンプト上で、Enterボタンを押下します。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
The MPE720 folders are deleted.
C:\Users\admin\AppData\Local\VirtualStore\Program Files (x86)\YASKAWA\MPE720 Ver
7, よろしいですか (Y/N)? y
Operation is ended. Please press some keys.
```

(※1): 1台のPCをマルチユーザで使用している場合は、各ユーザ毎に本作業を実施してください。

(※2): ログインしているユーザアカウント名が入ります。

(※3): OS環境により下記のパス名になります。

32ビット版OS: Program Files

64ビット版OS: Program Files (x86)

(※4): インストールするバージョンによりパス名が変更されます。

(※5): CD/DVDドライブ名が入ります。

(※6): MPE720 Ver.7インストール時、インストール先を変更した場合は、インストールしたパスに合わせて手動で以下フォルダ配下にある「MPE720 Ver7」フォルダを削除してください。

C:\Users¥ユーザ名(※2)\AppData\Local\VirtualStore

【並列回路のコンパイルについて】

MPE720 Ver7.23以前のMPE720 Ver7のラダープログラムにおいて、並列回路を使用した場合、以下の現象が発生することがあります。

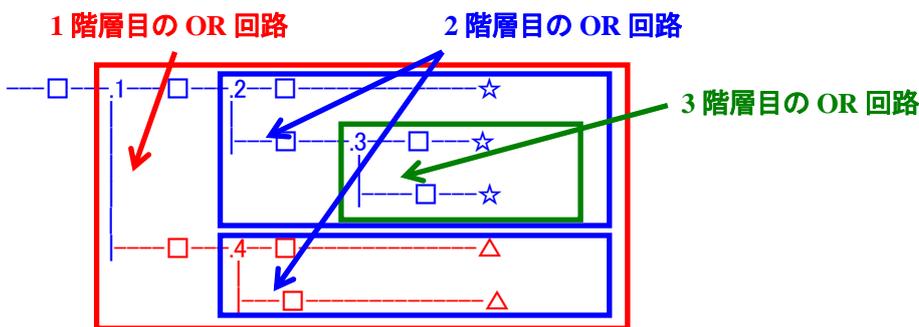
<現象>

下記のパターンを含む回路を作成した場合に、1階層目のOR回路の下側の回路が、本来、1階層目のOR回路の前にある条件命令を受けて、動作しなければならないところをその条件を受けずに動作してしまう現象がありました。

<対策>

現象が発生した場合は、MPE720 Ver7.24以降のMPE720 Ver7で、該当のラダープログラムについて、再コンパイルを実施してください。

または、「コンパイル」メニューの「プログラムの全コンパイル」を再度、実施してください。



- 1 階層目の OR 回路: ラングの母線から分岐された OR 回路
- 2 階層目の OR 回路: 1 階層目の OR 回路内から分岐された OR 回路
- 3 階層目の OR 回路: 2 階層目の OR 回路内から分岐された OR 回路

□(条件命令): A 接点、B 接点、比較(=、!=、>、<) 命令など

※□(条件命令)には、パワー線(——)も含む

☆(出力命令): コイル、ブロック命令(Expression、STORE、COPYW) 命令など

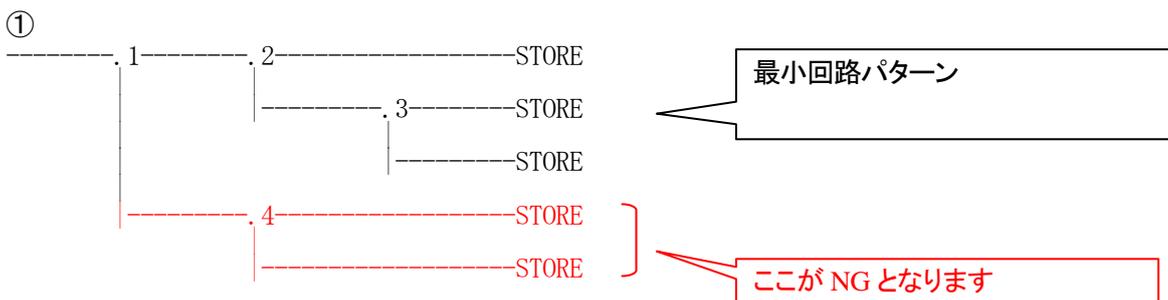
※ただし、☆が全てコイル命令の場合は、今回の現象は発生しません。

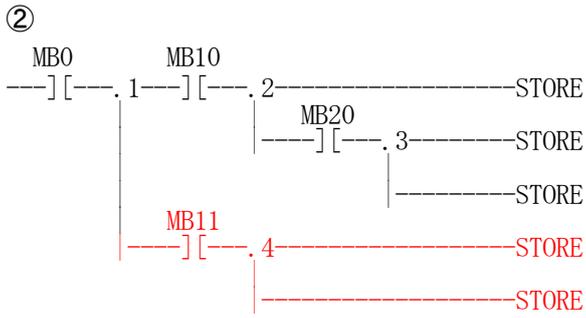
△(出力命令): コイル、ブロック命令(Expression、STORE、COPYW) 命令など

【現象発生パターン】

記号	命令
┌	A 接点
STORE	STORE 命令
()	コイル

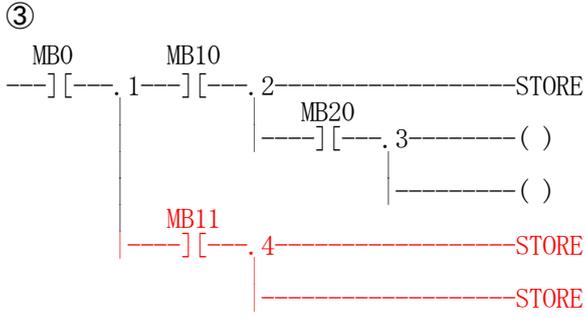
【NG パターン】





最小回路パターンに条件命令(A接点など)があっても NG

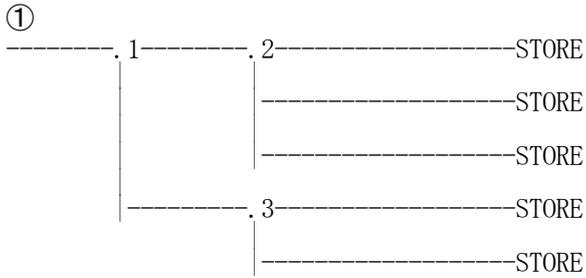
ここが NG となります



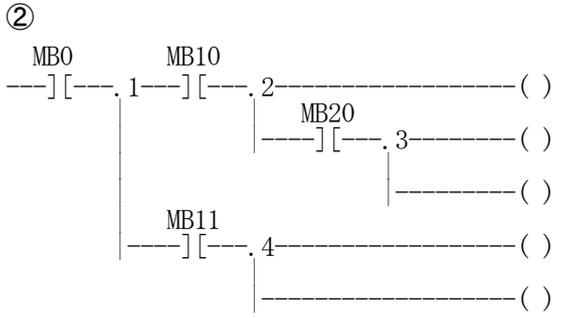
ここに1つでもブロック命令(STORE命令など)があると NG

ここが NG となります

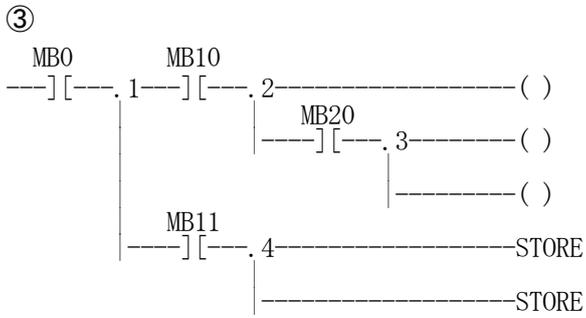
【OK パターン】



2 階層の OR 回路なので OK



すべてコイルなので OK



すべてコイルなので OK

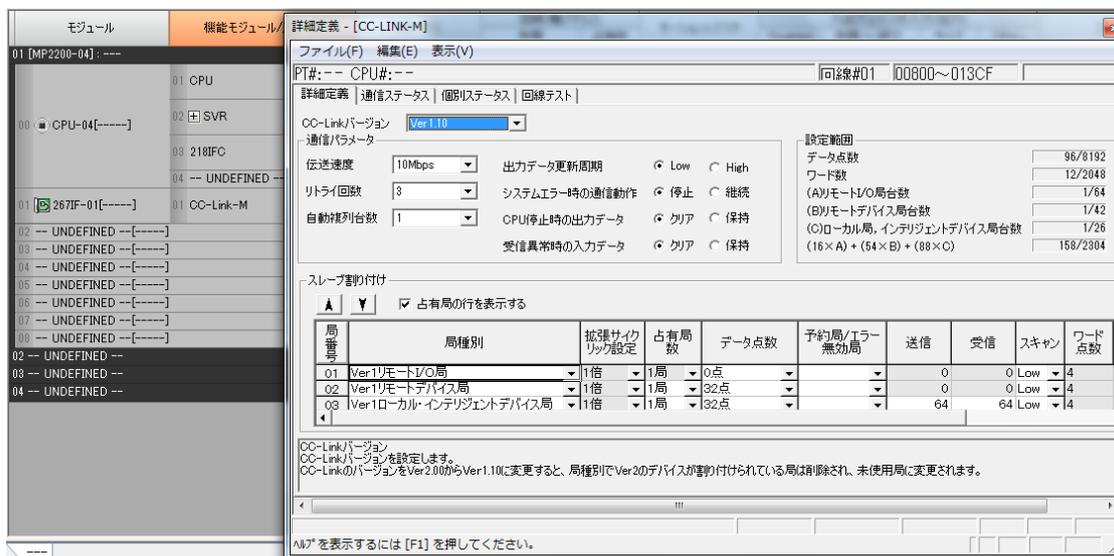
1.2 過去のバージョンアップ情報

No.	バージョンアップ	備考
1	MPE720 Ver7.11 バージョンアップ情報	Ver7.10→Ver7.11
2	MPE720 Ver7.13 バージョンアップ情報	Ver7.11→Ver7.13
3	MPE720 Ver7.14 バージョンアップ情報	Ver7.13→Ver7.14
4	MPE720 Ver7.20 バージョンアップ情報	Ver7.14→Ver7.20
5	MPE720 Ver7.21 バージョンアップ情報	Ver7.20→Ver7.21
6	MPE720 Ver7.23 バージョンアップ情報	Ver7.21→Ver7.23

2. 修正内容詳細

No.1 267IF-01(CC-Link マスタ)モジュールを追加しました。

MP2000 シリーズに装着可能なオプションモジュールに、267IF-01(CC-Link マスタ)モジュールを追加しました。



【対応バージョン】

コントローラ

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	未サポート (今後のバージョンアップで対応予定)
MP2000 シリーズ	Ver2.86 以降

オプションモジュール

モジュール	対応バージョン
267IF-01	Ver1.00 以降

No.2 モーションプログラムの ACCMODE 命令に、モード 4 を追加しました。

モーションプログラムの ACCMODE 命令に、モード 4(次ブロック速度指定付き加減速モード)を追加しました。補間系命令(MVS/MCC/MCW/SKP)において、FE(補間送り最終速度)の設定が可能になります。また、下記 2 つのモーションプログラムアラームに対応しました。

①アドレス M が範囲外

項目	内容
アラームコード	31H
アラーム名称	アドレス M が範囲外
アラーム内容	ACCMODE 命令において、設定範囲を超えた指令を行っている。
処置方法	ACCMODE 命令において、設定を見直す。

②指定アドレスエラー

項目	内容
アラームコード	32H
アラーム名称	指定アドレスエラー
アラーム内容	MVS/MCW/MCC/SKP 命令において、設定した ACCMODE に使用しないアドレスを指定した。
処置方法	ACCMODE/MVS/MCW/MCC/SKP 命令の設定を見直す。

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	Ver1.09 以降
MP2000 シリーズ	Ver2.86 以降

No.3 217IF-01 モジュールの伝送プロトコルの設定項目に、「無手順 FD」を追加しました。

217IF-01 モジュールの詳細設定画面の伝送プロトコルの設定項目に、「無手順 FD」を追加しました。



【対応バージョン】

コントローラ

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

オプションモジュール

モジュール	対応バージョン
217IF-01	Ver2.00 以降

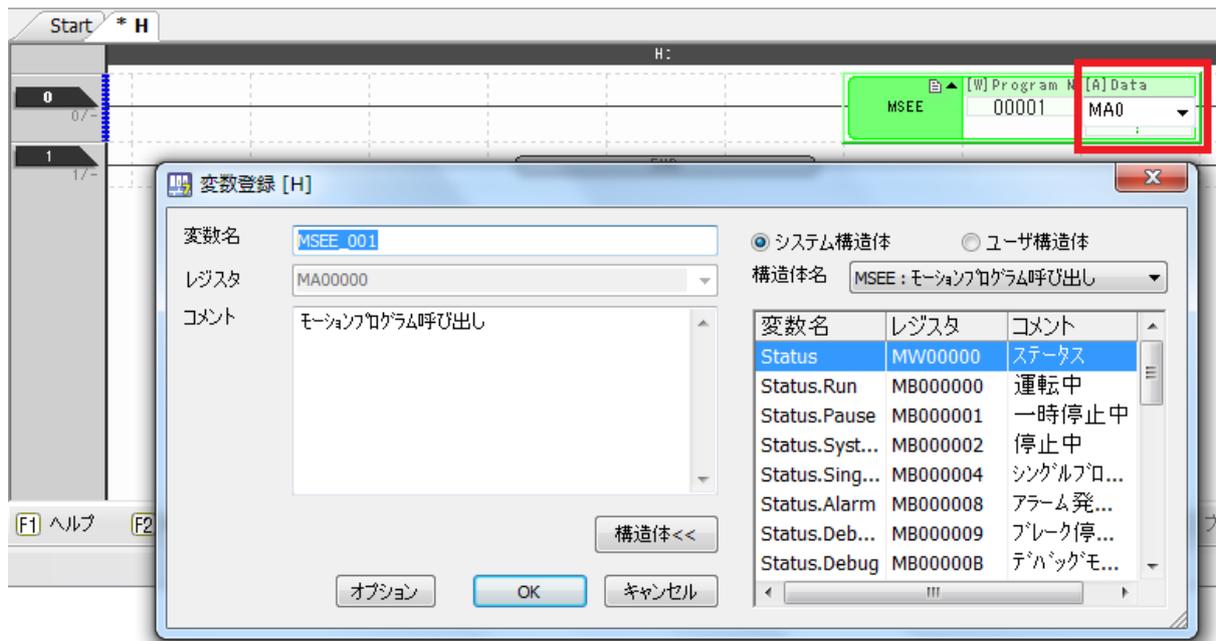
No. 4 ラダープログラムの変数登録アシスト機能をサポートしました。

ラダープログラムにおいて、アドレス型レジスタを使用する命令(MSEE 命令など)で、アドレス型レジスタを設定した場合に、自動的に変数登録する機能をサポートしました。

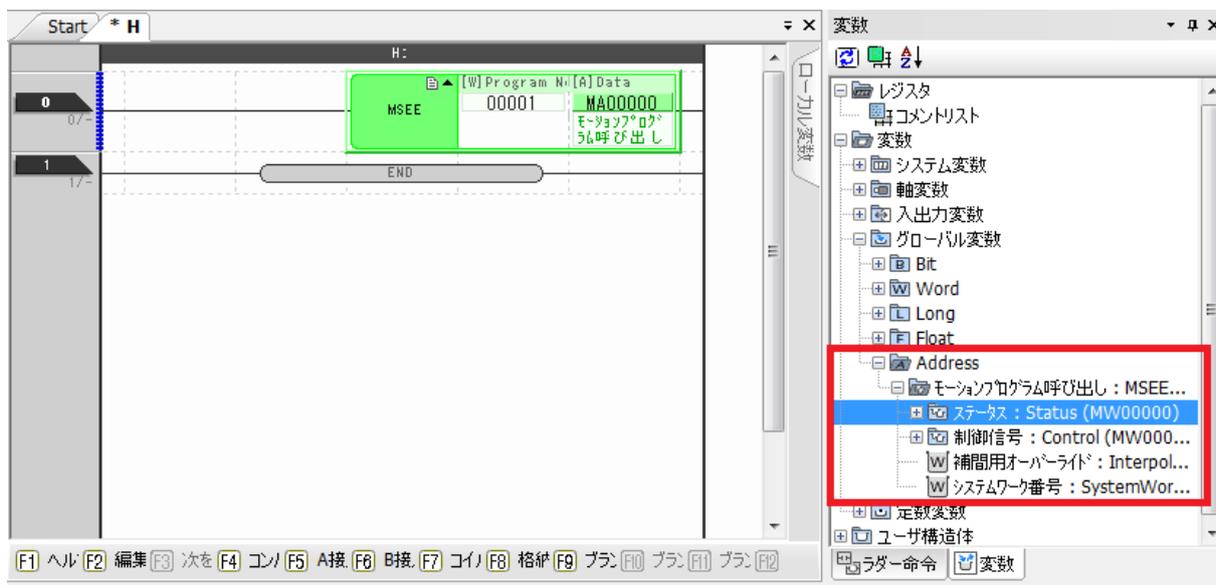
変数に登録されたレジスタをウォッチ機能に登録することで(Ctrl+W)、アドレス型レジスタのメンバを確認することが可能になります。

例) MSEE 命令の Data(アドレス型レジスタ)に、MA0 を設定した場合

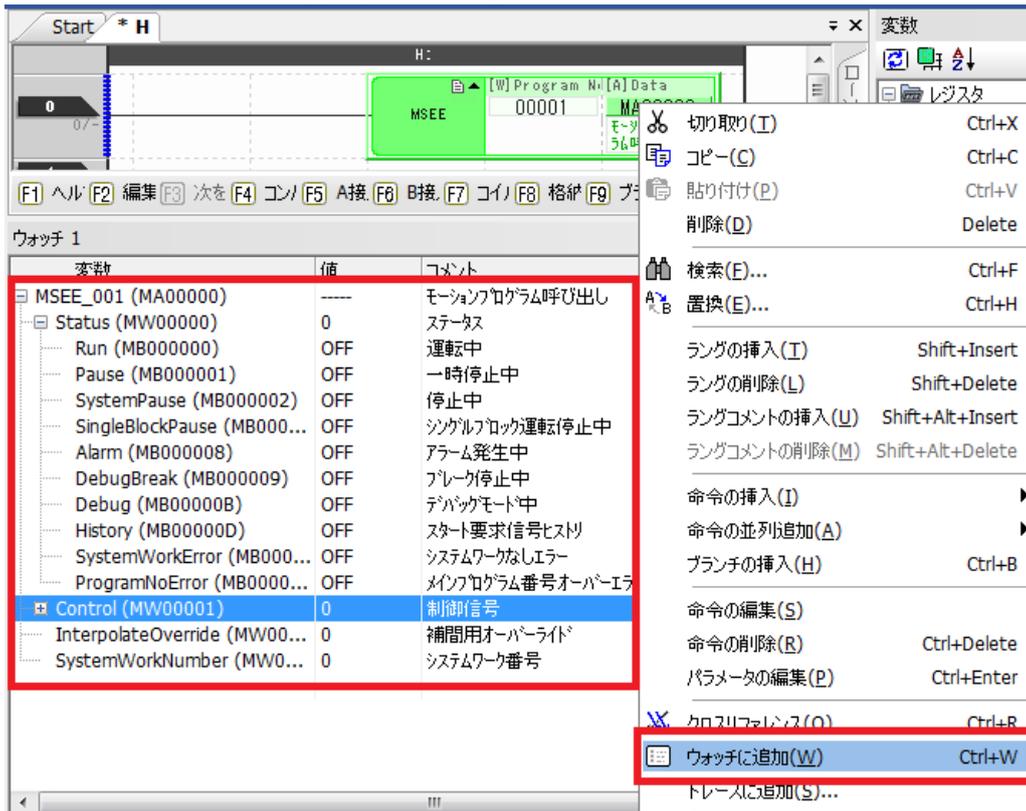
1. MA0 を入力すると、変数登録画面が起動します。



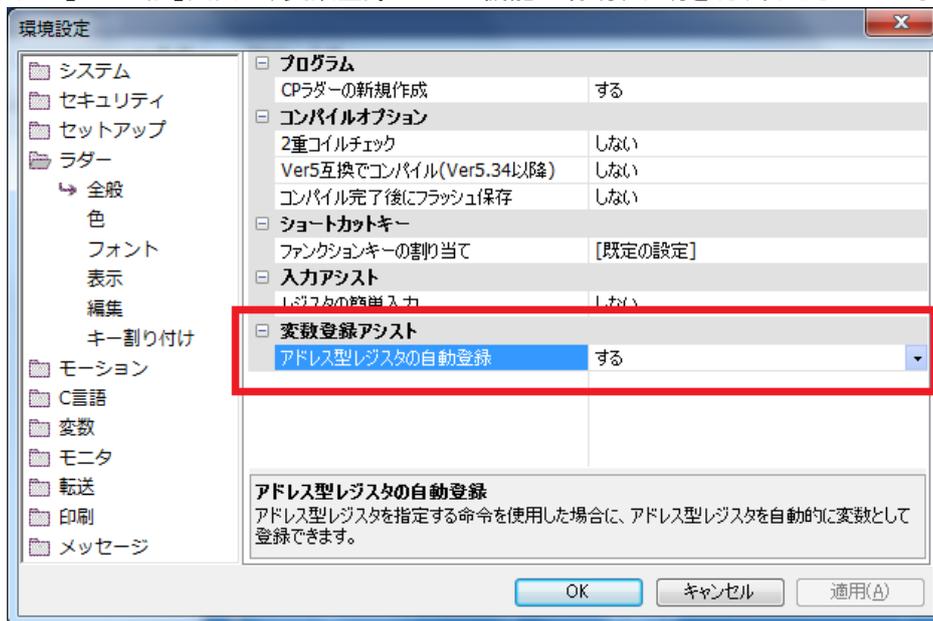
2. 「OK」ボタンを押下すると、変数ウィンドウに登録されます。



3. 「MA0」をウォッチに登録することで、構造体のメンバを確認することができます。



4. 環境設定の「ラダー」⇒「全般」画面で、変数登録アシスト機能の有効、無効を切り替えることが可能です。



【対応バージョン】

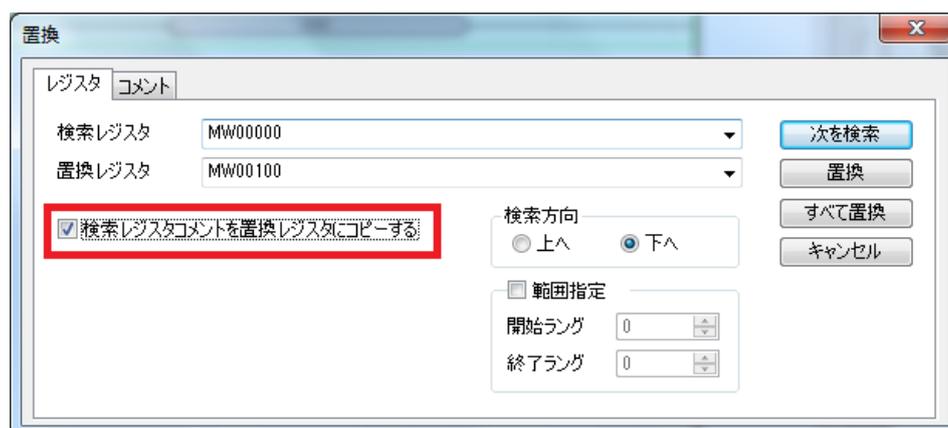
コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No.5 ラダーエディタの置換機能において、レジスタコメントのコピーオプション機能をサポートしました。

ラダーエディタの置換機能において、レジスタコメントのコピーオプション機能をサポートしました。「検索レジスタコメントを置換レジスタにコピーする」にチェックを入れることで、検索レジスタと置換レジスタの両方に、レジスタコメントを残すことが可能です。

【ラダーエディタの置換機能の起動方法】

1. ラダープログラムを開く。
2. 「編集」メニュー⇒「置換」を選択する。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

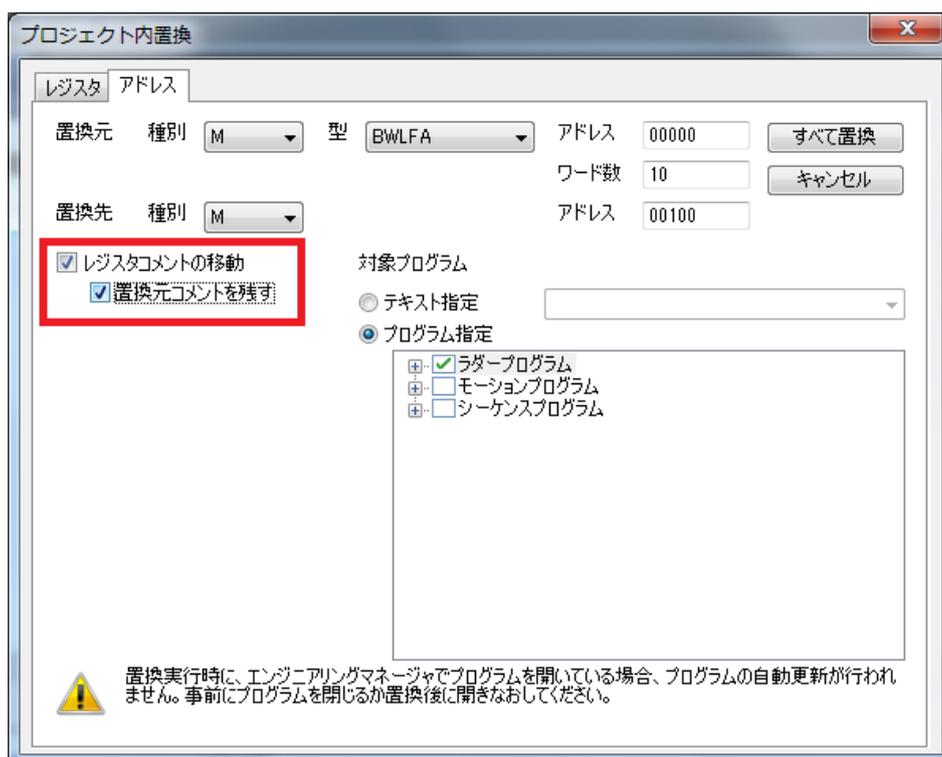
No. 6 プロジェクト内置換機能において、レジスタコメントの移動オプション機能をサポートしました。

プロジェクト内置換機能において、レジスタコメントの移動オプション機能をサポートしました。

1. 「検索レジスタコメントを置換レジスタに移動する」にチェックを入れることで、レジスタの置換と同時に、レジスタコメントも置換することが可能です。
2. また、「検索レジスタコメントを残す」にチェック入れることで、検索レジスタと置換レジスタの両方に、レジスタコメントを残すことが可能です。

【プロジェクト内置換機能の起動方法】

1. オフラインにする。
2. 「編集」メニュー⇒「プロジェクト内置換」を選択する。



【対応バージョン】

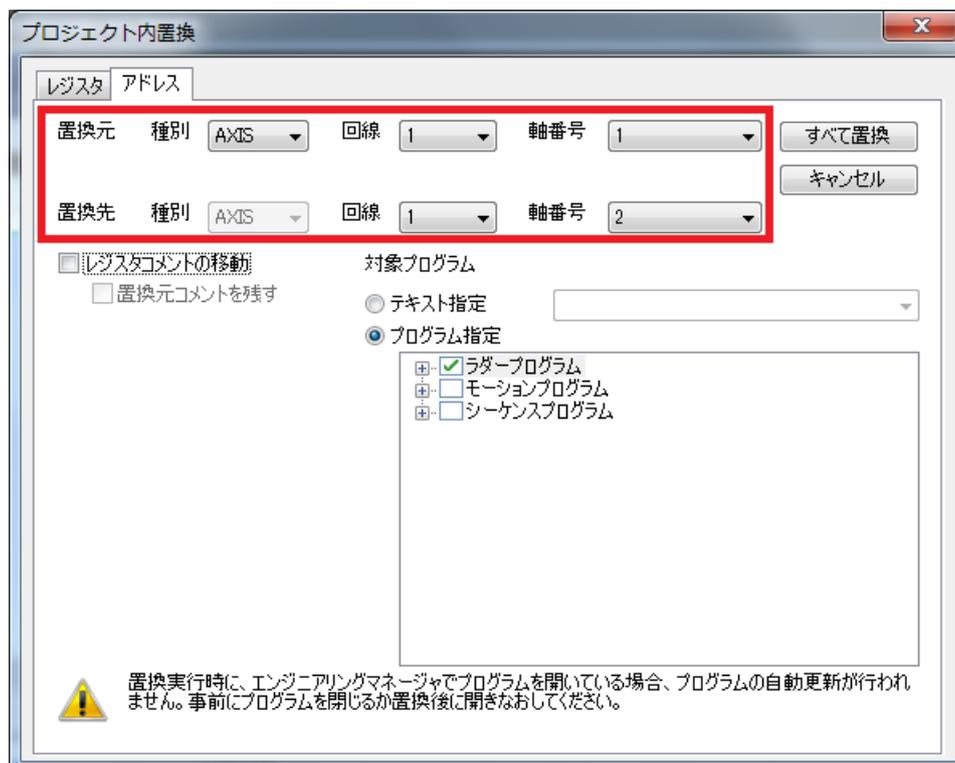
コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No.7 プロジェクト内置換機能において、モーションレジスタの置換機能をサポートしました。

プロジェクト内置換機能において、モーションレジスタの置換機能(種別: AXIS)を追加しました。
種別に「AXIS」を選択し、回線番号、軸番号を指定することで、モーションレジスタの一括置換ができるようになります。

【プロジェクト内置換機能の起動方法】

1. オフラインにする。
2. 「編集」メニュー⇒「プロジェクト内置換」を選択する。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 8 プロジェクト内置換機能において、Bit 型レジスタの置換機能を改善しました。

プロジェクト内置換機能において、Bit 型レジスタの置換に、「B(ビット数指定)」を追加しました。「B(ビット数指定)」を指定した場合、同一アドレスの Bit 型レジスタに対しても置換できるようになります。

【プロジェクト内置換機能の起動方法】

1. オフラインにする。
2. 「編集」メニュー⇒「プロジェクト内置換」を選択する。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

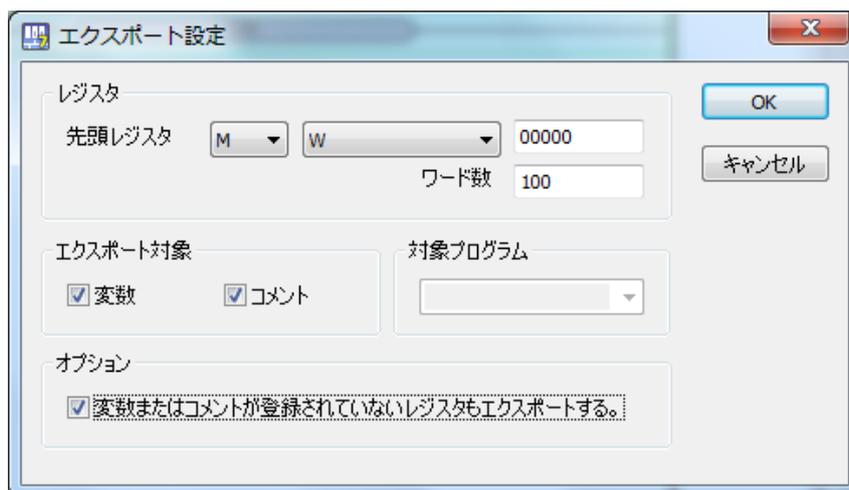
No.9 変数、コメントのエクスポート機能の改善を実施しました。

変数、コメントのエクスポート機能において、エクスポートするレジスタの範囲を指定してエクスポートできる機能をサポートしました。

従来は、コメントが登録されたレジスタは、すべてエクスポートされる仕様となっていました。

【変数、コメントのエクスポート機能起動方法】

1. 「ファイル」メニュー⇒「エクスポート」を選択する。
2. エクスポート画面で、「変数とコメント」の「指定レジスタの変数とコメントをエクスポート」を選択する。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 10 シンボルの変換動作を改善しました。

MPE720 Ver5 で作成された圧縮(拡張子: MAL)ファイルを MPE720 Ver7 で開いた際に、実施される MAL ファイルから Ver6 互換(拡張子: YMW)ファイルへのプロジェクト変換時に、CP ラダーなどで使用されているレジスタのシンボルをコメントに統合できる改善をサポートしました。

※「シンボル.コメント」の形式で変換されます。

例)

MAL ファイル内の MW00000 のシンボルとコメント

レジスタ番号	シンボル	コメント
MW00000	Symbol1	Comment1



YMW ファイル内の MW00000 のコメント

レジスタ番号	コメント
MW00000	Symbol1.Comment1

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 11 環境設定画面に、プロジェクトファイルの MPE720 Ver6 との互換運用モード機能を追加しました。

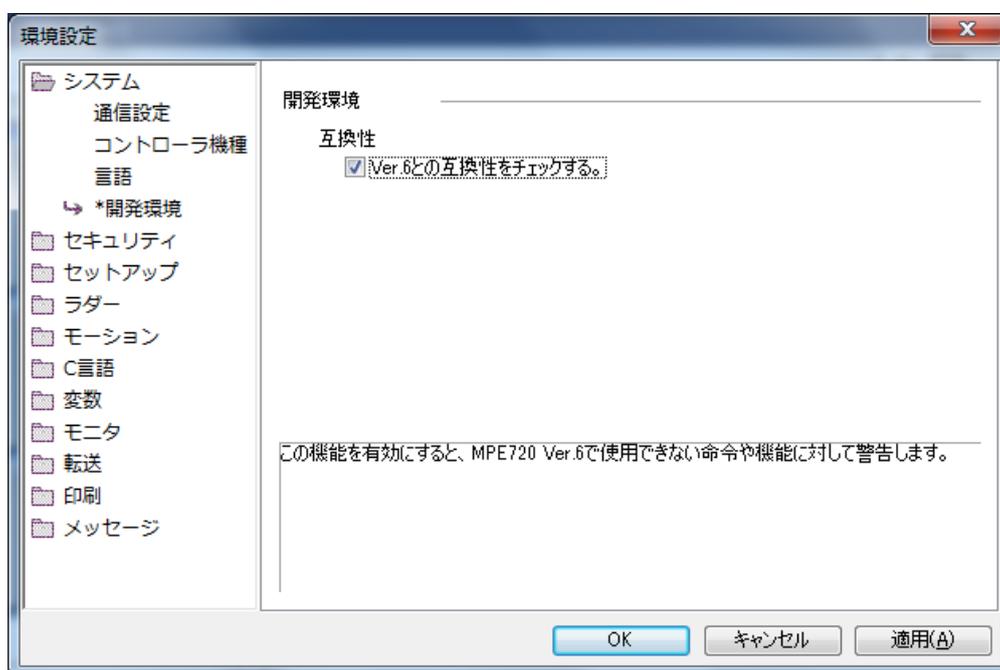
環境設定画面のシステム⇒開発環境に、「Ver.6 との互換性をチェックする」のチェックを追加しました。

「Ver.6 との互換性をチェックする」を選択した場合、下記の動作が追加されます。

※「Ver.6 との互換性をチェックする」の選択は、Ver6 互換プロジェクトファイル(拡張子: YMW)のときのみ選択可能です。

【動作】

1. ラダーの EXPRESSION 命令やモーションプログラムのコンパイルモードを「バージョン 6 互換」から「バージョン 7.00」に変更した場合、警告メッセージを表示します。
2. ラダーの EXPRESSION 命令やモーションプログラムのコンパイルモードに、「バージョン 7.00」モードを選択した状態でコンパイルした場合に、出力ウィンドウに、「warning」を出力します。
3. ラダー内に、Ver7.20 よりサポートした並列回路を作成し、コンパイルした場合に、出力ウィンドウに、「warning」を出力します。

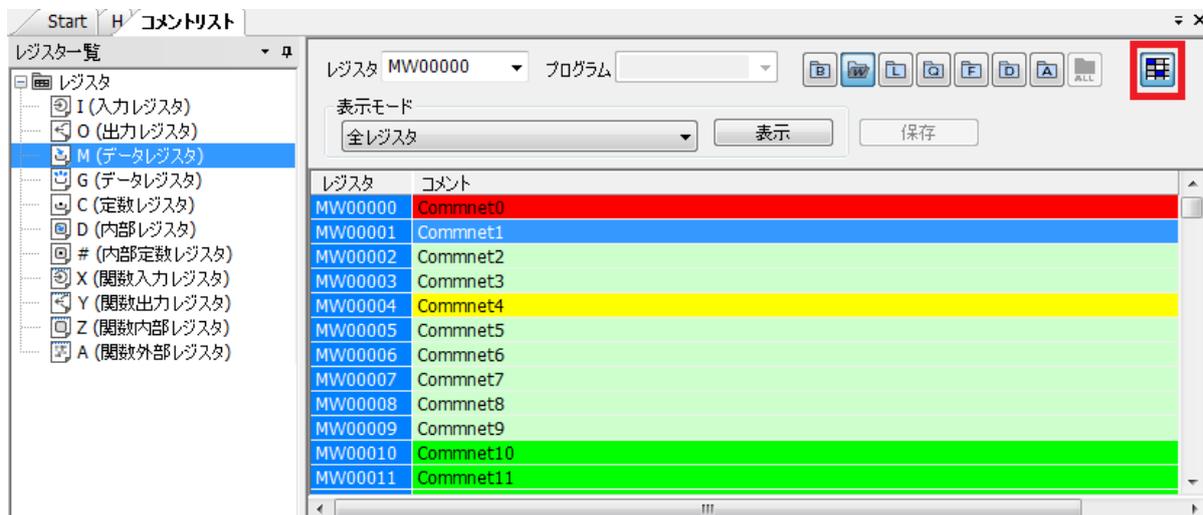


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 12 コメントリスト機能に、レジスタマップを表示する機能を追加しました。

コメントリスト機能に、レジスタマップ(使用中のレジスタ)を色表示する機能を追加しました。
レジスタマップ機能を使用することで、使用中のレジスタ、重複して使用しているレジスタ、未使用のレジスタを確認することが可能です。



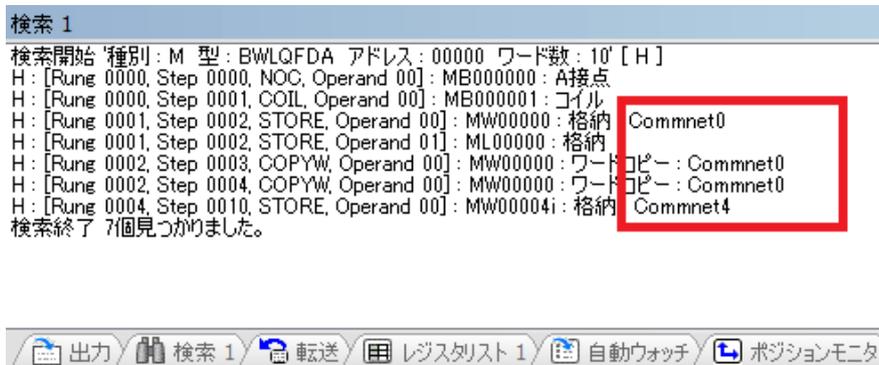
色	説明
黄緑色	使用中のレジスタ
薄い黄緑色	COPYW 命令など使用するレジスタの幅を指定する命令で使用されているレジスタ ※レジスタ幅の設定値を直接、値を設定している場合
黄色	・インデックスレジスタで指定されているレジスタ ・COPYW 命令など使用するレジスタの幅を指定する命令で使用されているレジスタ ※レジスタ幅の設定値にレジスタを使用し、値を設定している場合
赤色	重複して使用されているレジスタ

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No.13 検索の出カログの表示改善を実施しました。

検索を実施した場合に、検索ウィンドウに出力されるログに、レジスタコメントも検索ウィンドウに表示するように改善しました。



【対応バージョン】

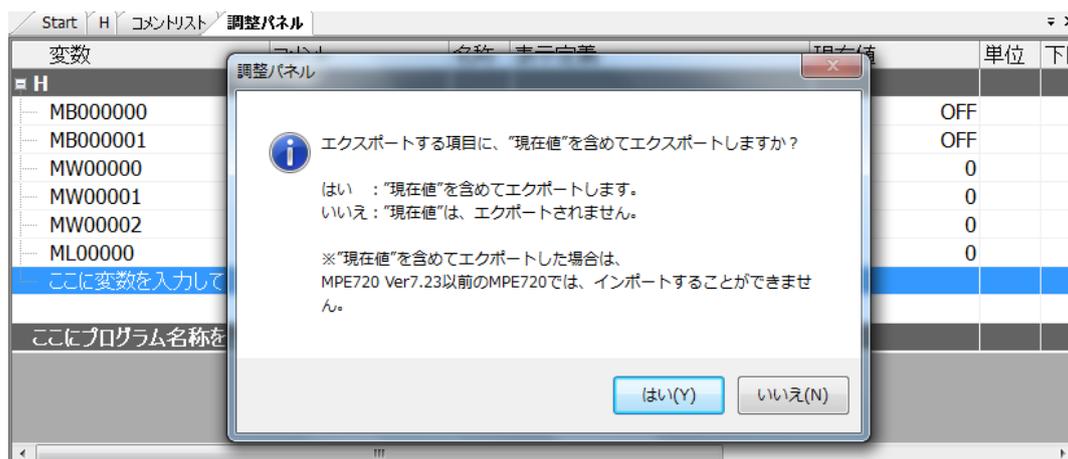
コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No.14 調整パネルのエクスポート、インポート機能の改善を実施しました。

調整パネル機能のエクスポート、インポート機能に、現在値をエクスポート、インポートできるように改善を実施しました。

※現在値を含むエクスポートデータは、MPE720 Ver7.23 以前の MPE720 ではインポートすることができません。

MPE720 Ver7.23 以前の MPE720 で、エクスポートデータをインポートする場合には、現在値を含まない csv ファイル形式でエクスポートすることで、インポートすることが可能です。



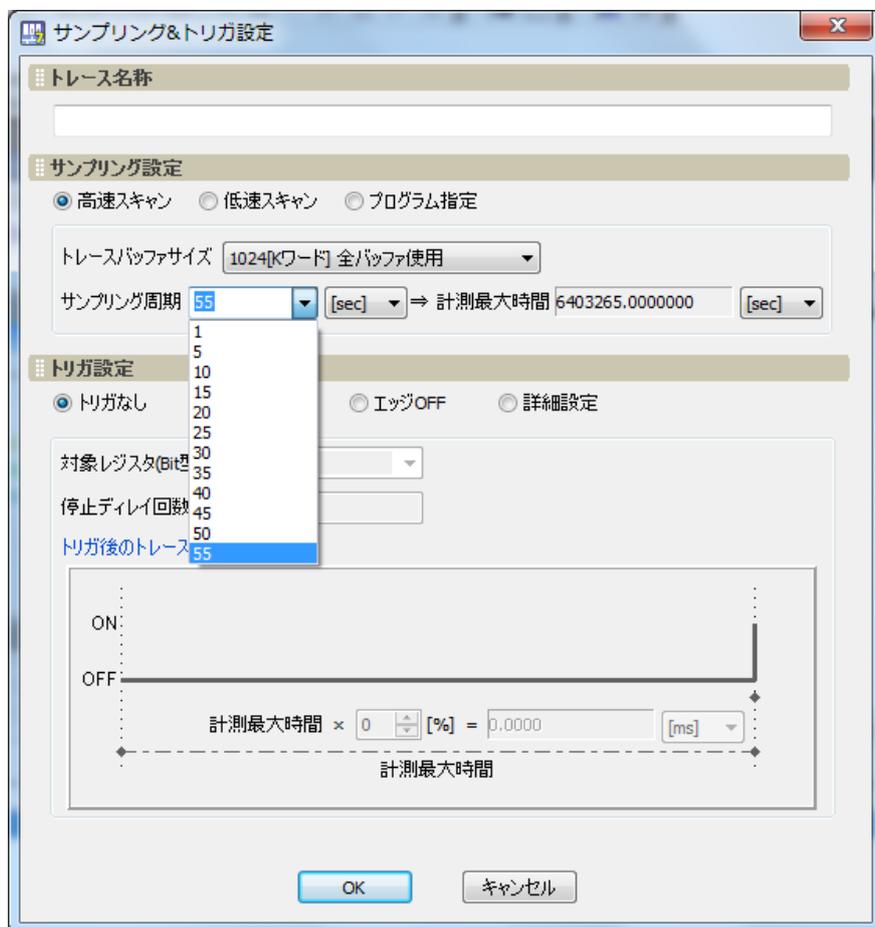
【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 15 リアルタイムトレース機能のサンプリング周期設定の改善を実施しました。

リアルタイムトレース機能のサンプリング周期において、高速スキャン、低速スキャンに同期した設定の場合、[sec]、[min]、[hour]単位で、データを取得できるように改善しました。

※設定できるサンプリング周期の最大時間は、高速スキャン、低速スキャンの設定時間、トレースバッファサイズの設定により異なります。

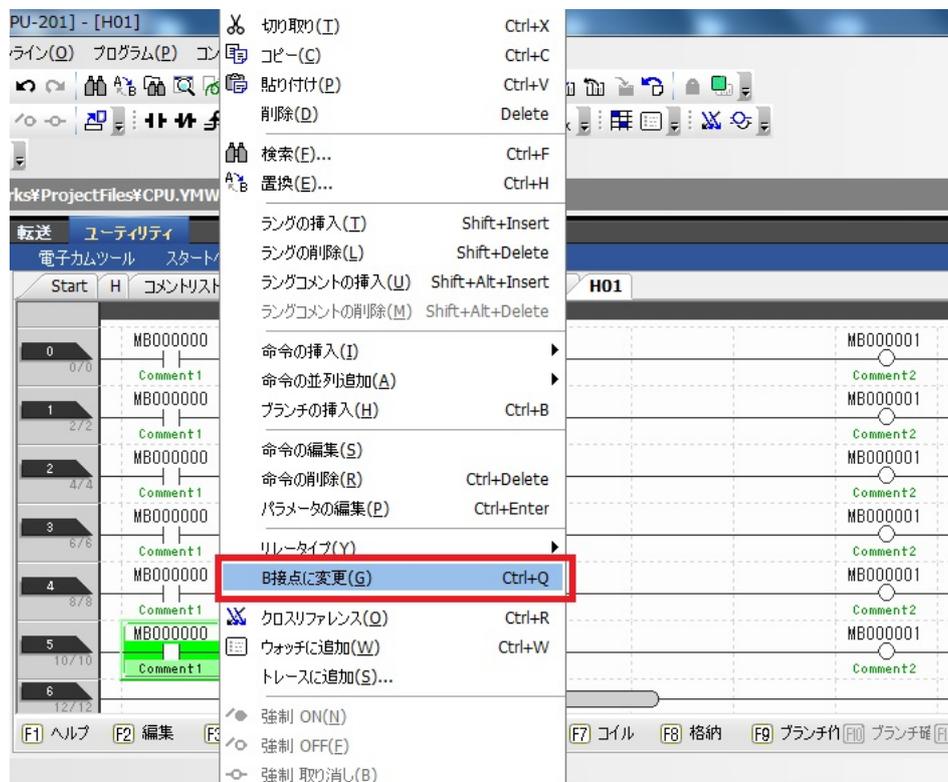


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 16 ラダープログラムのショートカットキーを追加しました。

A 接点から B 接点に、B 接点から A 接点に変更する場合のショートカットキーに Ctrl+Q を割り付けました。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 17 プログラム選択チェックツリーの動作改善を実施しました。

転送機能、プロジェクト内検索機能、プロジェクト内置換、環境設定画面の「転送」⇒「MPLoader」の「転送ファイル設定」のプログラム選択チェックツリーの動作を下記のように動作改善を実施しました。

例)

孫図面のみ存在する場合(H 図面:存在しない、H01 図面:存在しない、H01.01 図面:存在する)

【改善前】

プログラム選択チェックツリーでは、H 図面、H01 図面にチェックをつけることができる動作となっていました(H 図面、H01 図面が存在するように見える動作となっていました)。

【改善後】

プログラム選択チェックツリーでは、H 図面、H01 図面がグレー表示されます。また、H 図面、H01 図面にチェックをつけることができない動作となります。

さらに、3 ステートチェックボックスの動作となります。



ステート	説明
<input type="checkbox"/>	チェックなし (下層のツリーで、すべてのプログラムが選択されていない状態)
<input type="checkbox"/>	中間状態 (下層のツリーで、一部のプログラムが選択されている状態)
<input checked="" type="checkbox"/>	チェックあり (下層のツリーで、すべてのプログラムが選択されている状態)

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

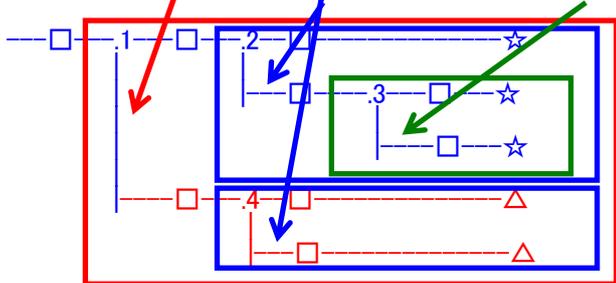
No. 18 ラダープログラムのコンパイル動作の改善を実施しました。

ラダープログラムのコンパイル動作において、下記の回路パターンを含む回路(MPE720 Ver7.20 からサポートしました並列回路)を作成した場合に、回路の一部が正常に動作しないことがありましたので、これを改善しました。

【現象】

下記のパターンを含む回路を作成した場合に、1 階層目の OR 回路の下側の回路が、本来、1 階層目の OR 回路の前にある条件命令を受けて、動作しなければならないところをその条件を受けずに動作してしまう現象がありました。

1 階層目の OR 回路 2 階層目の OR 回路 3 階層目の OR 回路



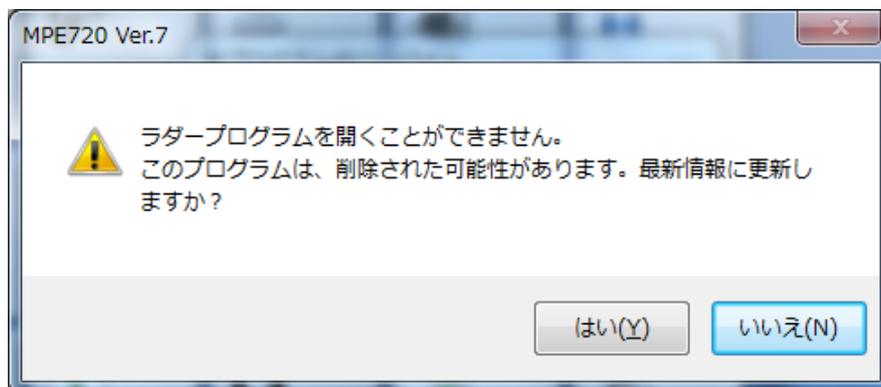
項目	説明
1 階層目の OR 回路	ラングの母線から分岐された OR 回路
2 階層目の OR 回路	1 階層目の OR 回路内から分岐された OR 回路
3 階層目の OR 回路	2 階層目の OR 回路内から分岐された OR 回路
□(条件命令)	A 接点、B 接点、比較(=、≠、>、<)命令、パワー線(——)など
☆(出力命令)	コイル、ブロック命令(Expression、STORE、COPYW)命令など ※ただし、☆が全てコイル命令の場合は、現象は発生しません。
△(出力命令)	コイル、ブロック命令(Expression、STORE、COPYW)命令など

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 19 プロジェクトファイルの全プログラムのコンパイル動作の改善を実施しました。

プロジェクトファイルの全プログラムのコンパイル動作を実施した場合に、既に削除されたプログラムのコンパイル結果が出力ウィンドウに表示され、コンパイルエラーとなる現象がありましたので、これを改善しました。

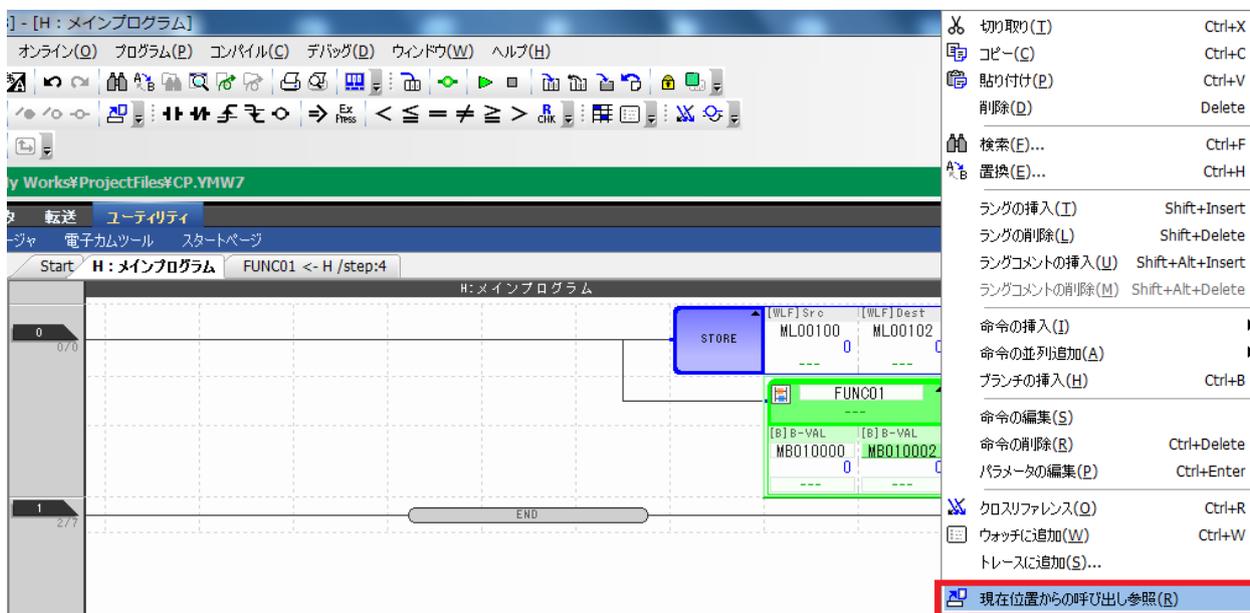


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 20 ラダープログラムの「現在位置からの呼び出し参照」動作の改善を実施しました。

関数(FUNC 命令)を OR 回路の下側に配置して、「現在位置からの呼び出し参照」を実行した場合に、参照した関数の実行ステータスを確認できない(現在値採取ができない)現象がありましたので、これを改善しました。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 21 ラダープログラムの FUNC 命令の入力操作を改善しました。

関数(FUNC01)を作成した状態で、ラダーエディタ上で、「func func01」と入力すると、小文字の「func01」が設定できてしまう現象がありましたので、「func func01」と入力された場合も、大文字の「FUNC01」が設定されるように改善しました。



【対応バージョン】

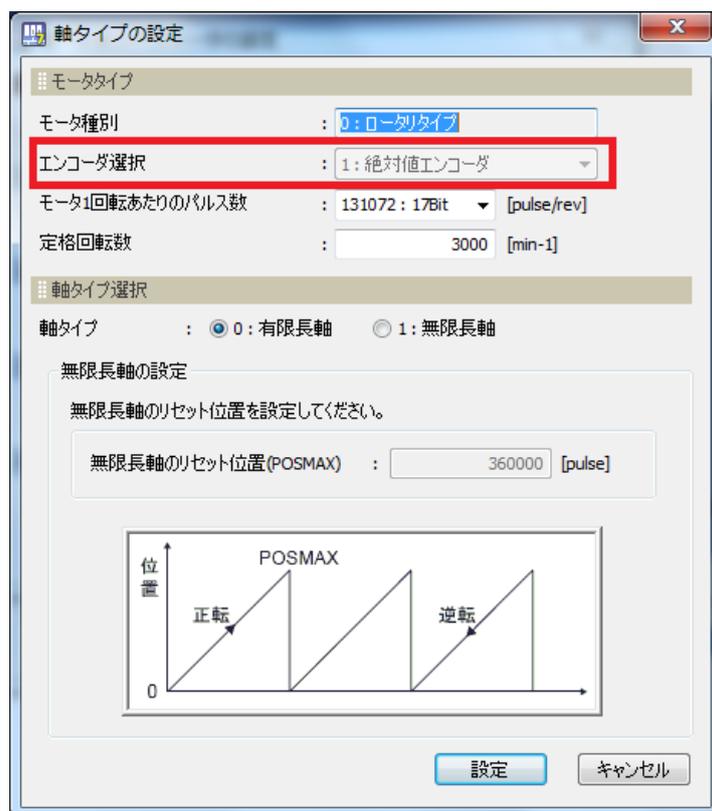
コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 22 軸のセットアップウィザード機能の「軸タイプの設定」画面の動作改善を実施しました。

軸のセットアップウィザード機能において、下記の操作を実施した場合に、「軸タイプの設定」画面の「エンコーダ選択」の設定値が、サーボパックに書き込んだ設定値とは異なる設定値で表示される現象がありましたので、これを改善しました。

【操作】

1. コントローラに、オンライン接続する。
2. 軸のセットアップウィザード機能を起動し、「1. サーボパックパラメータの設定」を行う。
3. サーボパックパラメータの設定を完了し、サーボパックに設定を書き込む。
4. 「2. モーションパラメータの設定」で「2. 軸タイプの設定」画面を開くと、「エンコーダ選択」の設定値が誤った設定値となる。

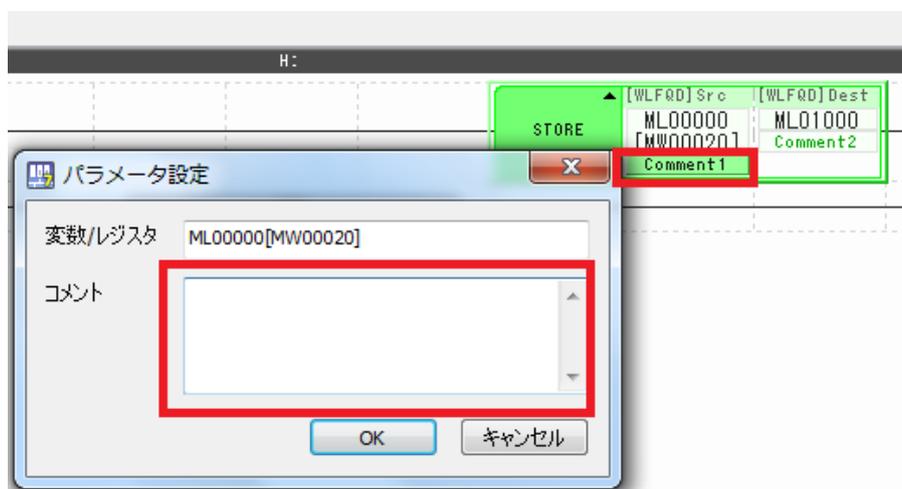


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 23 ラダーエディタのパラメータ設定ダイアログの表示改善を実施しました。

ラダープログラムにおいて、命令に配列レジスタを使用し、そのレジスタをダブルクリック操作で再編集した場合に、パラメータ設定ダイアログにコメントが表示されないという現象がありましたので、これを改善しました。

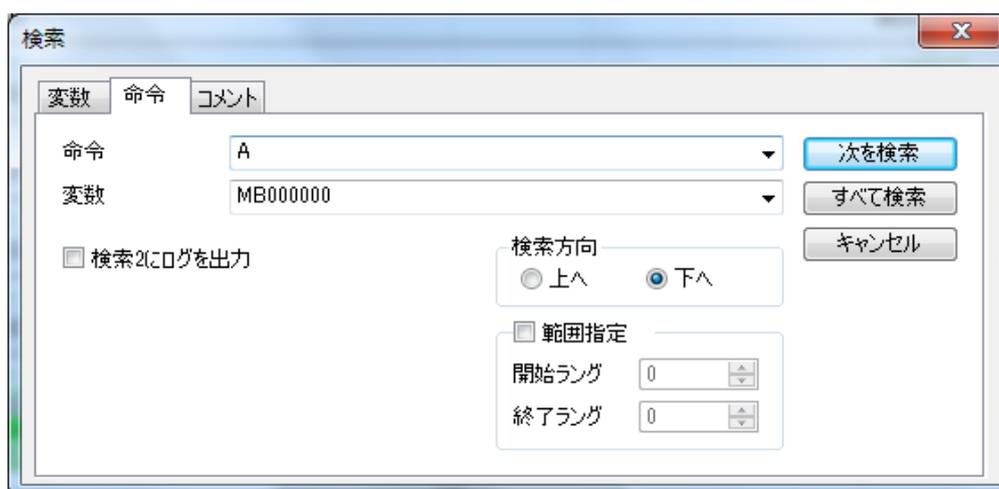


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 24 ラダーエディタの検索機能の動作改善を実施しました。

ラダーエディタの「命令」検索機能において、命令に、「A 接点」、「B 接点」、「コイル」を指定し、変数に「レジスタ」を指定した場合に、検索条件に合致する命令が存在するにもかかわらず、検索にヒットしないという現象がありましたので、これを改善しました。

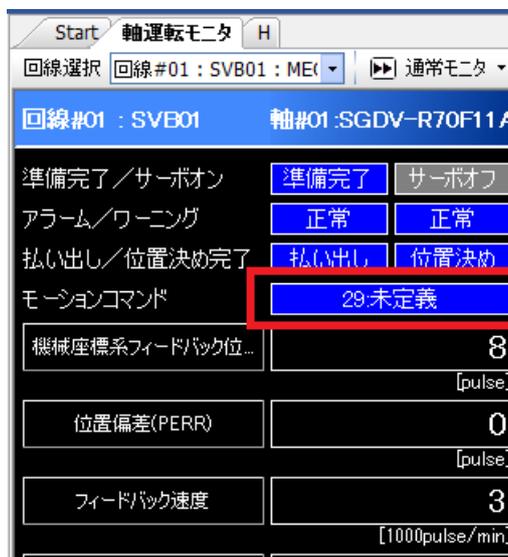


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 25 軸運転モニタのモーションコマンドの表示改善を実施しました。

モーションコマンドの応答(IWxx08)が、「29:サーボオン」、「30:サーボオフ」、「31:アラームクリア」の時に、軸運転モニタのモーションコマンドに、「未定義」と表示される現象がありましたので、これを改善しました。

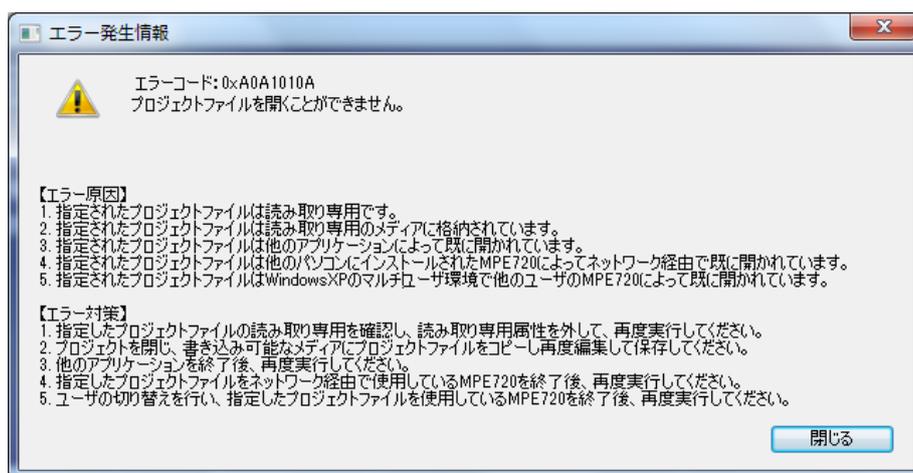


【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 26 プロジェクトファイルの保存動作の改善を実施しました。

プロジェクトファイルの保存動作が正常に完了しなかったときに、そのプロジェクトファイルを再度、開くとエラーメッセージが表示され、プロジェクトファイルを開けなくなるという現象がありましたので、これを改善しました。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 27 MPE720 Ver5 の圧縮ファイル(拡張子: MAL)から Ver6 互換プロジェクトファイル(拡張子: YMW)への変換動作の改善を実施しました。

下記の条件を満たす場合に、MPE720 Ver5 の圧縮ファイル(拡張子: MAL)から Ver6 互換プロジェクトファイル(拡張子: YMW)に変換したラダープログラムをコンパイルするとコンパイルエラーとなる現象がありましたので、これを改善しました。

【条件】

1. MPE720 Ver5 の圧縮ファイルが、新ラダーエディタモードで作成されている。
2. EXPRESSION 命令内に、シンボルで演算が記述されている。

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

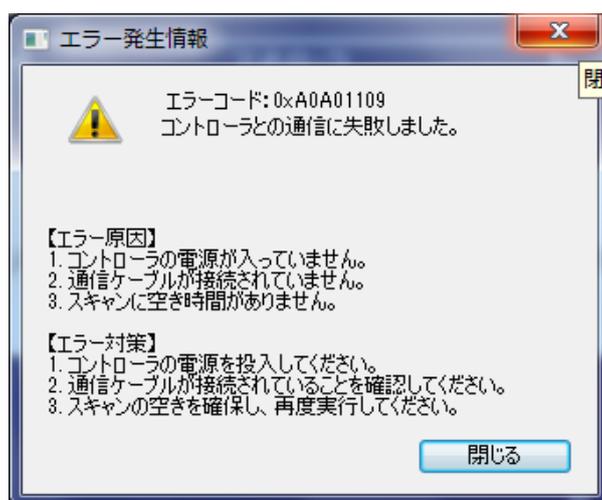
No. 28 MC-Configurator の SVB モジュールの設定保存動作を改善しました。(PART 1)

モジュール構成(MC-Configurator)で、下記の操作手順で SVB モジュールの設定をプロジェクトファイルに保存し、そのプロジェクトファイルデータをコントローラに書き込みすると、コントローラとオンライン接続することができなくなる現象がありましたので、これを改善しました。

【手順】

例)MP2310 コントローラの場合

1. プロジェクトファイルを新規作成し、MC-Configurator を起動する。
2. 内蔵 218IFA モジュールの詳細設定画面を開き、IP アドレスを 192.168.1.2 に変更し、保存する。
3. 内蔵 SVB にサーボ(SGDV-11A)を割り付けて、保存する。
4. 転送機能で、システム定義をコントローラに書き込み、フラッシュ保存する。
5. 電源再投入で、コントローラ(192.168.1.2)にオンライン接続する。



【対応バージョン】

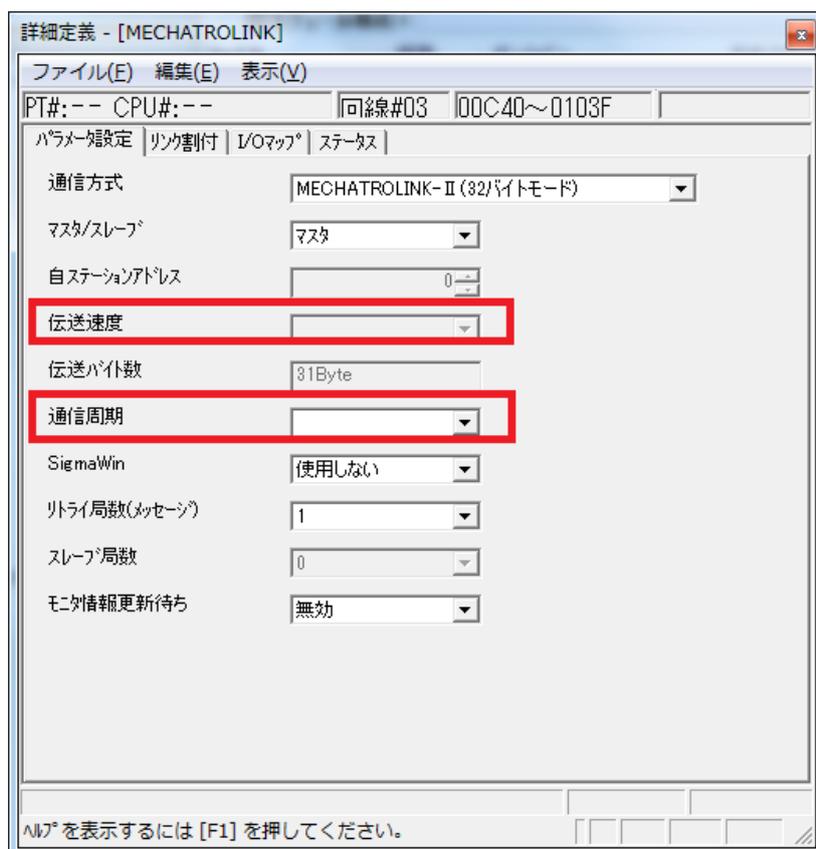
コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 29 MC-Configurator の SVB モジュールの設定保存動作を改善しました。(PART 2)

下記の操作手順を実施し、SVB モジュールの詳細設定画面を開くと、伝送速度、通信周期の設定が空となる現象がありましたので、これを改善しました。

【操作手順】

1. プロジェクトファイルを新規作成する。
2. モジュール構成定義(MC-Configurator)を起動する。
3. オプションモジュールに、SVB モジュールを割り付ける。
4. 保存(プロジェクト保存)する。
5. SVB モジュールにサーボパックを割り付ける。
6. サーボパックを割り付けた状態(編集状態)で、SVB の詳細設定画面を開く。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 30 サーボパラメータ画面のサーボパックバージョンの表示改善を実施しました。

コントローラにオンライン接続した状態で、モジュール構成定義画面で、SVB モジュールに割り付けられたサーボパックのサーボパラメータ画面を開いた際に、サーボパックのバージョン情報が、「0x0000」と表示される現象がありましたので、サーボパックのバージョン情報を正しく表示するように改善しました。



【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。

No. 31 通信プラットフォームの通信断線時の動作改善を実施しました。

Windows 7 の PC において、ケーブルが抜けるなどコントローラと通信ができなくなった場合に、MP からの通信タイムアウトするまでに時間にかかっていましたので、これを改善しました。

【対応バージョン】

コントローラ	対応バージョン
MP3200 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。
MP2000 シリーズ	コントローラのバージョンには依存しません。